

# 「サービス経済化」に伴う価格，資本蓄積，および経済成長の 動態分析

加 藤 悠 太<sup>\*</sup>，下 野 直 輝<sup>\*</sup>，中 村 魁 士<sup>\*</sup>

## 要 旨

産業構造変化を捉えるため，生産関数と生産性上昇率が異なる製造業部門とサービス部門の 2 部門から構成される最適成長モデルを構築し，近年のサービス経済化に伴う，サービスの相対価格の上昇，資本蓄積率の低下，および経済成長率の停滞を分析した。サービスの相対価格の上昇やサービス経済化の要因は製造業部門とサービス部門の生産性上昇率の差異であることが明らかとなった。生産性上昇率に差異がある場合，より多くの労働者がサービス部門に吸収されることになる。また，製造業部門に対するサービス部門の資本ストックや産出量の比率は時間を通じて上昇し，将来的に資本蓄積率や経済成長率はサービス部門のそれらの値に漸近する。サービス部門のほうが製造業部門よりも成長率が低い将来的に経済全体の成長率は低下していく。したがって，経済成長の停滞を解決するためにはサービス部門の生産性上昇率を改善する必要がある。

---

\* 京都大学経済学部